

三三三三番

かむとけの 光ひかれる空そらの 九月ながつきの しぐれの降ふれ
 ば 雁かりがねも いまだ来き鳴なかぬ 神奈備かむなびの 清きよき
 御田屋みたやの 垣内田かきつたの 池いけの堤つつみの 百足ももたらず い槻つき
 の枝えだに みづ枝えさす 秋あきのもみち葉は まき持もてる
 小鈴こすずもゆらに たわやめに 我われはあれども 引ひき
 攀よぢて 末うれもとををに ふさ手折たをり 我われは持もちて
 行いく 君きみがかざしに

反歌はんか

三三二四番

ひとりのみ 見みれば恋こひしみ 神奈備かむなびの 山やまのもみ
 ち葉は 手折たをり来けり君きみ